

ひょうご



森林ボランティア 第12号

兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会

森づくり普及啓発全県イベント「ひょうご里山フェスタ2022」を終えて

兵庫県 農林水産部 治山課

ボルダリングの体験、ステージでの登山講座、アウトドア車イスの試乗などを催すなど、若者の関心が高いアウトドアの要素を企画に取り入れました。

1 はじめに

2022年10月30日に丹波篠山市の県立丹波並木道中央公園で開催した「ひょうご里山フェスタ2022」(主催:ひょうご里山フェスタ2022実行委員会(本県、丹波篠山市ほかで構成))は、約3,200名の来場者があり、盛況のうち終えることができました。

式典において森林ボランティア活動報告をしていたいただいた桑田会長をはじめ、ブースの出展や里山林整備体験プログラムの指導役を務めていただいた貴協議会の皆様のあたたかいご支援とご協力に心から厚く御礼申し上げます。

【当日、ご協力いただいた団体一覧】

平松区森林愛好会(丹波市)、丹波おおやま里山オーナー会(丹波篠山市)、ひょうご森の倶楽部(神戸市ほか)、的形ふるさと里山会(姫路市)、大山上生産森林組合(丹波篠山市)、ブナを植える会(神戸市ほか)、ナシオン創造の森育成会(西宮市)

※当日の参加者数が多い順に記載



ユースサポーターがモデルを務めた告知チラシ

2 イベント名称変更のねらいとポイント

森づくり普及啓発全県イベントは、近年「ひょうご森のまつり」と称してきましたが、里山林整備の担い手が高齢化し担い手不足が進みつつあることを踏まえ、里山をテーマとして、名称を「ひょうご里山フェスタ」に改めました。

また、開催に当たっては、新たな担い手と期待される若者への普及啓発にポイントを置くこととし、登山用品店である(株)好日山荘や岡山大学などの協力を得て、プロ登山ガイドによる里山ハイキングや、

3 ユースサポーターの設置

加えて、力を注いだのが企画運営そのものへの若者の参画です。県内で森林や緑化等について学ぶ大学生等による「ユースサポーター」を実行委員会に付属する組織として設置し、県立森林大学のほか神戸大学や兵庫県立大学、甲南女子大学から21名の学生が参加しました。



ユースサポーターによる紙芝居「里山物語」

当日は、里山について少しでも学んで帰ってほしいという学生の願いが込められた紙芝居や里山クイズ大会などのステージイベント、どんぐりなどを使用したゼリーキャンドルづくり、貴協議会と連携した里山林整備体験プログラムなどを催し、好評を得ました。

4 おわりに

本イベントは終わりましたが、交流が芽生えた森林ボランティア団体主催イベントに「ユースサポーター」の学生が自主的に参加するなど、うれしい情報も耳にしました。

姫路市で開催する次年度に向けては、一過性のイベントで終わるのではなく、「ひょうご里山フェスタ」開催を通じてより多くの若者が森林ボランティア団体の皆様との交流を深める契機となるよう志をしっかりと持って準備を進めたいと考えています。

会員団体の活動紹介

山田の里グリーンクラブ（神戸市）

山田の里は、日の峰・桂木といったニュータウンに隣接しており、周辺の里山林 2,000 m²も含めて棚田 2,000 m²、ため池 500 m²を地主さんから借り受け、この地の整備・保全、復旧・再生の活動を行っている。

農業従事者の高齢化と後継者不在により、山田の地域も徐々に耕作放棄地が増加し田畑や森林の荒廃が進んでいる。先人が築き上げてきた里山林や棚田が広がる美しい自然を、後世に受け継いでいくことが私たち大人に課せられた責務であると考え、山田の里の自然保護活動に取り組んでいる。

会員は 27 名で、毎月第 1・第 3 日曜日、第 2・第 4 火曜日の午前中を活動日として、季節の野菜栽培や、里山林の保全活動を実施している。

また、地域の小学生や中学生、さらには地域住民にも参加を呼びかけ環境体験学習を行っている。

活動例として、①小学校 2 年生生活科学習（自然観察、工作、ネイチャーゲーム）②小学校 3 年生環境体験学習（自然観察、サツマイモ苗植えと収穫、工作）③中学校トライやるウィーク（農業体験、里山林の手入れ）④地域の親子による体験型環境学習（農業体験、里山林の手入れ、シイタケ植菌）⑤KOBE 学生地域貢献スクラムによる（里山林の保全活動、農業体験）などがある。

これらの体験を通して子どもたちは、豊かな自然の中で過ごす楽しさを味わいながら、自然を守り育てる活動をしている人々がいることの存在に気づき、自分たちも自然を大切にしていこうという思いを強く持ってくれたものと確信している。



里山林の手入れ(トライやるウィーク)



サツマイモの収穫(環境体験学習)

川西里山クラブ（川西市）

1. 活動内容

私達の活動地は川西市黒川地区の一角にあり、「妙見の森」と称しています。妙見山 660m の中腹（500m）に位置します。

活動地はコナラなどの薪炭林ですが、谷合にエドヒガンの群生を発見して 2011 年川西市の天然記念物として認定されました。

このような状況で最初に手を付けたのは、エドヒガンの種を採取して苗木の育成や、谷間を覆いつくす根笹刈りでした。エドヒガンの植樹以降は、コナラを伐採して鹿柵ネットを張って、クヌギの植樹（パッチディフェンス複数箇所）に点在させました。これは「里山の若返り」を目指したもので、兵庫県からも「ひょうごの生物多様性保全プロジェクト」としても認定されています。

設置した散策道を利用して小学生の「里山体験学習」も実施しています（今年度は 6 校実施）。

2. 現状と課題

・シカの食害

林床は裸地化が進み、傾斜地では土壌が流出も見受けられ、シカによる被害が顕著である。その対策としてウリハダカエデ(鹿の不嗜好植物)をいろいろなシェルター（ネット）で覆いテストをしている。

・会員の減少と高齢化

長引く新型コロナの影響でイベント開催など行事が出来ず PR 不足もあいまっての現象か。

3. 里山を生かす展開

「里山の若返り」を目指す為にも薪づくりやシイタケ栽培をして、参加者の楽しみや生物の育成などを取り入れて、活気あふれた会にしたいと考えています。



小学生の「里山体験学習」



ウリハダカエデのシェルターテスト 5 種類

大山上生産森林組合（丹波篠山市）

小学生と共に

丹波篠山市大山上地域は8割強が山林で、そこから得られた収入で公共設備や貧しい人への救済活動としての趣法山を設けて「趣法の精神」として現在も引き継がれていますと共に、先代の「山よ緑よふるさとよ」「山は緑に水は清らかに」の言葉が言い伝えられており、私たちはその精神を引き継ぐべく里山をフィールドとして活動しています。

その一環として小学校のコミュニティスクールとして地域が子供を育てる奉仕精神に基づき色々とお手伝いしています。

①緑の少年団の団長として山林の見廻りにより木々の説明と金山山頂にオカメ桜の記念植樹を行っている。

②私たちが整備した松茸山での子供達と松茸狩り、但し松茸の収穫は無でした。



緑の少年団 金山(かねやま)での植樹



子供達と松茸狩り

③わち刈りや農地の維持としての竹林整備による竹チップでカブト虫幼虫のふ化観察。

④共有林皆伐後の混交林のPTAによる下草刈り活動を指導。(PTAでの下草刈りは全国的に珍しく残っています)。

⑤緑の少年団に昔の山、現在の山、これからの山と山の大切さの座学を行った。

以上の事は毎年行っており、子供達がこの地域の良さや思い出づくりを行いこの地域に住んで良かったと云う思いと共に、住んでみたいとの思いを育てるための活動を行っています。

丹波大山オーナー会（丹波篠山市）

活動場所：丹波篠山市大山新奥坪 3.5ha 1,000㎡/区画

活動日：月2回 第2日曜日、第4土曜日 その他随時

会員数：19名（2022年12月現在）

年会費：5,000円（別途、借地使用料15,000円）

2003年に選出されたオーナー25名で会を設立以来、荒廃していた山林を各々専用の区画があるが、間伐などの作業は共同で行ってきた。伐採した木は、材に加工（簡易製材機を使用）した後、会員が集える場としてあずま屋や作業小屋を建てるのに利用してきた。

当初は真っ暗な照葉樹の広がる山林であったが、除間伐を繰り返した結果、現在では、かつての茶畑だったところからは茶の木が萌芽し、下草で



作業小屋



小学5年生 椎茸の植菌作業

覆われていた土地からは淡いピンク色の美しい花「笹ユリ」が開花するなど、かつての里山の景観が取り戻されてきた。近年は、整備した斜面に栗の木などの植栽にも取り組んでいる。

地域との交流としては、地元の収穫祭に出展、木工芸品の販売。また、『丸太切り』などのイベントも実施している。里山保全活動に加え、地元住民の田で田植えや稲刈りや栗・黒豆の収穫などの農作業の手伝いやビオトープでの環境教育にも取り組んでいる。トライやるウィークでは地元の中学生を受け入れ、間伐作業見学や木工体験を指導している。

新会員紹介

NPO 法人 Co-Creation このゆびとまれ（神戸市）

現在、日本で、そして、世界で大規模な土砂災害や、風水害、地震災害が多発しています。それは、人類による過度な開発や環境破壊が原因の一つだと言われています。

日本では、少子高齢化により、空き家が増加し、山林や神社までも、放置される状況にあります。神戸市兵庫区にある里山もそのひとつでした。

2014年ごろに活動を始める前は、竹や木々が無造作に生い茂り、林道も進むこともできず倒壊後の、空き家の残材や倒壊しかけの空き家があり危険な状態でした。そのままでは、山の保水力も低下し、土砂や残



学生と子どもたち

材の流出などにより市民に迷惑をかけると思いました。

祖先が守ってきた里山をなんとかできないかと、明石高専の学生や教授、明石のはらクラブという子供を中心とする環境保護の団体、地域の人たちなど多様な世代の交流の輪を通じて復興してきました。

そして、やっと人が集まって心地よい場所になりつつあります。2020年には、第22回人間サイズのまちづくり賞も受賞しました。

天王町竹林保全活動組織という任意団体から2022年5月17日特定非営利活動法人「Co-Creation このゆびとまれ」に移行しました。

山の保全活動を通じて、さまざまな環境問題、青少年の健全育成、こどもの居場所づくり、防災意識の向上など多種多様な事業を展開し、社会に大きく貢献したいと思います。皆様の参加をお待ちしています。



空き家の廃材も使った
ツリーハウス

東多田里山の会（川西市）

「東多田里山の会」は、川西市が所有する、川西市東多田に位置する放置里山「しゃらりんの森」(5.5ha)の整備、再生するため、2019年1月に北摂里山大学OBが集まり設立しました。

活動地である「しゃらりんの森」は、台風等による倒木、松枯れ・なら枯れ等の立枯木、(常緑樹で覆われた)で人が立ち入ることができない状態でした。

地域コミュニティーの方は、地域住民の憩いの場癒しの場を求めており、その意向を受けた川西市当局と当会と協議を行い、活動することとなりました。

主な活動は、①放置里山の整備（立ち枯れ、倒木の処理、崩落崖の修復、谷川落下物の引上げ清掃、ハイキング道の整備等）②景観林としての基礎調査（服部保名誉教授、上田萌子准教授による指導等）③隣接する多田東小学校、多田小学校の体験学習等の受け入れ（3年生の環境体験学習、ナラガシワ植樹、間伐伐採処理体験等）④地域コミュニティーへの里山開放（お披露目会、案内板除幕式等）⑤ハイカー等の利活用者への情報提供（パンフレット、案内板の設置等）です。



ナラガシワの植樹後の谷川観察(3年生)



しゃらりんの森 案内板除幕式
(2022.6.4)

活動日は毎週月曜日と土曜日の午前中。会員数は31名で、新しい仲間を募集しています。知識や経験の有無、性別、年齢は問いません。気の良い仲間たちと活動することで新しい世界が開け、地域貢献もできます。まずは体験入部を！

田和棚田交流人（佐用町）

私たち「田和棚田交流人」は、当時の兵庫みどり公社の活動として1998年に設立した団体です。佐用町西部、西はりま天文台のある大撫山のふもと、田和の棚田の整備保全活動を地元の方々の協力の上、おこなっています。

田和の棚田は野面積みの石垣で構成された美しい境界線が自慢です。昔は300枚程度あったと聞きますが、放棄での山林化、石垣崩落などで今はかなり減ってしまいました。また、そこに住む方々も高齢化が進み、すでに限界集落となっています。

その中で私たちは毎月第3日曜日に集まり、石垣、畦道、放棄田の草刈り、放棄田での菜園体験などのんびりと活動しています。



田和の棚田



地元の方と餅つき

コロナ禍以前は地元との交流として、夏祭り、餅つきを楽しんでいました。地元の方々とお話ししながら先人の知恵などを教えていただきます。コロナ禍で現状中断していますが、来年以降、再開が待ち遠しいところです。

日常生活から離れ、自然あふれ、人工物の音がしない環境でのんびり楽しむ。プチ移住体験、プチ野菜栽培など、地元の方々に教えていただきながらの活動です。その活動で棚田の風景、里山の景色を守りながら地域活性化にも協力できれば。そんな気持ちで活動を続けています。

お太子木こりん（太子町）

私たち「お太子木こりん」は“森と遊ぶ”をテーマに、西播磨太子町にある総合公園内の松ヶ下山で2021年より活動しています。

公園用地でありながら10年以上未着手であった里山を散策できる森にすべく、太子町、各種団体と協力しながら、毎月第2日曜日に活動しています。また、公園という特色を活かし、子どもたちの伐採体験、リース作り、たけのこ掘りなど、“森と遊ぶ”機会を提供しています。また、公園のイベントに丸太切りなどのブースを出し、子どもたちに体験してもらっています。

昔は、周りは畦道、田んぼなど土や草木が身近にありました。

そのような自然体験を太子町で提供できればと思い団体を立ち上げました。幸い、間伐対象が大型枯損木よりヒサカキなどの低木が多かったこともあり、子どもたちにも伐倒体験をしてもらっています。親子での自然遊びのなかで、森に興味を持つ人口を増やしていきます。



子どもたちもみんなでロープ引き



たけのこ掘り大会

また、面積の半分以上が竹林であり、大径の孟宗竹が生い茂っています。普段の間伐に合わせて春には地域に呼びかけてのたけのこ掘り大会を実施。昨年は50名程度が集まり、数百本のたけのこを掘りました。

年間通じて気軽に参加できるイベントなどを行いながら、子ども、大人のビギナー参加を増やしていき地域の公園を自分たちで作る活動を進めていきます。

森ボラ協として、イベントに出展しました

ひょうご里山フェスタ 2022

今年度から名称が変更された「ひょうご里山フェスタ」は10月30日（日）に丹波並木道中央公園（丹波篠山市）で開催され、当協議会は従来の「ひょうご森のまつり」と同様に、式典における森林ボランティア活動報告、テントブースでの活動PR、里山整備体験の指導スタッフとして、丹波地域の会員団体を中心に7団体、23名が参加しました。

活動報告は、森林ボランティア活動の幟旗を持った会員団体のメンバーが並んだステージ上で桑田会長から県内の森林ボランティア活動を報告するとともに、多くの県民のみなさまが森づくり活動に参加されるよう呼びかけました。

テントブースでは各団体を紹介するパネルの展示や発行したばかりの森林ボランティア団体プロフィール集を配布して活動をPRし、活動への参加をお誘いしました。また、丹波地域の会員団体「平松区森林愛好会」がヒノキの間伐材で製作した生ごみコンポスト「キエたん」を展示し、間伐材の活用と環境保全に向けたSDGsの実践事例を紹介しました。

里山整備体験は、会場（公園）内に住友ゴム工業（株）が「企業の森づくり」で植樹された場所の除伐作業を行っていただきました。参加者は事前申し込みされた方のほか当日参加の方もあったものの、合わせて7人とやや少なかったのは残念でしたが、当協議会メンバーがほぼマンツーマンで体験をサポートすることができ、里山整備の目的や作業要領を十分伝えることができました。参加者には森ボラ協各団体の活動も紹介し、体験で終わらず実践されることの期待を伝えて終了しました。



式典における森林ボランティア活動報告



里山整備体験

こうべ森の文化祭 2022

10月30日（日）に再度公園で開催された「こうべ森の文化祭 2022」に当協議会としてテントブース出展し、活動PRや会員団体活動地の竹を活用した「須磨の立体ぶんぶんごま」づくり他ワークショップを神戸地区及び六甲山関連会員団体3団体9名がスタッフとして行いました。おだやかな修法ヶ原池のほとりで、憩いの緑豊かな森に囲まれながらの楽しいイベントでした。子供連れの多くのご家族の参加があり、各出展団体毎の工夫された展示や、工作作りを楽しまれていました。特にクイズラリーは色々な景品が当たることもあってか、子供、大人かまわずみなさん熱心に走り回っておられました。私共のブースでも、森林率に関するクイズについて、難しいなど言われながら熱心に取り組んでいただきました。

我々スタッフも他ブースでは興味深いお話を多く聞かせていただきました。中でも粘菌の説明を出展者の子供さんが熱心に説明してくださったのには感動し、頼もしく感じました。

当協議会のブースにも多くの家族連れが来られ、森林の話を聞いていただいたり、また立体ぶんぶんごまづくりに励んでブーン、ブーンと大きな音をたてて回して楽しく遊んでいただけました。また、熟年ご夫婦が来られ、「主人が退職したので森林ボランティア活動への参加はどのようにすればよいでしょうか？」との嬉しい問い合わせもありました。

有意義な1日となり、神戸市森林整備事務所からの後日発表では、昨年同様一般参加者約1,000名との事で、お陰さまで「緑の募金」も沢山募る事が出来た次第です。



森林ボランティア団体連絡協議会のブース

森林ボランティア講座が開催されました

今年度の兵庫県主催の森林ボランティア講座は、10月8日（土）～11月26日（日）の間に、例年どおり入門編4日間、リーダー養成編6日間の日程で開催され、それぞれ32名、7名が修了されました。入門編、リーダー養成編を修了されたお二人から寄稿いただきました。

「森林ボランティア講座 入門編」でスキルアップ！

よこおみち森もりの会 横山 克治

私は、2021年12月に神戸市須磨区で活動する『よこおみち森もりの会』（以下、森もりの会）に入会させて頂きました。里山の整備を経験していくと、ドンドン面白くなっていく。如何せん森もりの会の諸先輩方に比べると、私は里山整備の体系的な知識やスキルが乏しい。代表からの勧めもあり、これらを補うべく森林ボランティア講座を受講させて頂きました。

講座は、4日間の講義と実習からなります。講義では、安全講習、植生遷移のしくみや生物多様性など、実習地も異なり変化に富んだものでした。特に、3日目の雌岡山での人工林間伐実習は、自分が意図した方向に正確に倒す作業ノウハウを教示頂きました。

この実習は、安全作業へとつながります。受け口と追い口を正確に作れているか、倒伐方向に対する体の位置、のこぎりを曳く姿勢など、実習者の作業状態を確認され、作業を可視化して説明されました。リーダー養成編の指導リーダーとその横的的確に指導された『ひょうご森の倶楽部』のベテランリーダーの一言が素晴らしい。

受講終了後、記録資料とは別に指導内容をまとめ直し、森もりの会の中にも報告しました。

2022年は、森もりの会以外の活動にも参加しました。須磨区の妙法寺古民家での竹林整備（妙法寺竹援隊）や多井畑西地区での里山整備（上穂川北フィールド）は、同じ放置竹林を対象としながらも、目的の異なる活動へと向かっています。

森林ボランティア講座で得たことを基礎にして、今後も次のステップに向けて自身のスキルアップを計っていきたい。



よこおみち森もりの会への報告資料

「森林ボランティア講座 リーダー養成編」を受講して

獅子ヶ池を美しくする会 松本 耕一

獅子ヶ池を美しくする会で私は主に池周辺の散策道沿いの枯木や植樹した桜に日当たりを良くする為の伐採で、景観重視の活動をしておりました。

2021年より六甲山系グリーンベルト整備事業の「森の世話人」として獅子ヶ池の隣接地も活動地を広げました。グリーンベルトの活動地は下方に住宅地が有り、急斜地のうえ表土が露出した土砂災害警戒区域が含まれています。

講習では仲間づくりの重要性を強く感じました。仲間づくりには先ず参加者に楽しんでもらい、また来たい、続けたいと思える環境作りが大事です。それには、安全対策、指導法を具体的にご指導いただき大変参考になりました。また、色々な森林ボランティアの活動地を拝見させていただき、自身の活動の指針となりました。

現在はグリーンベルトの活動は数名で細々としていますが、仲間づくりや関係者への関心を広める活動を展開したいと思います。そして、子供の頃にキャンプなどで楽しんだ思い出のこの地を沢山の人が集う癒しの森に育てたいと思います。

最後に講師の先生、現場指導いただきました指導員、会場提供の関係者、事務局の皆様へ感謝の気持ちでいっぱいです。有難うございました。



人工林間伐実習の様子(右が松本さん)

アース製薬（株）によるマダニ忌避剤の提供と講演会を実施

近年、兵庫県では2022年6月に2件の感染被害が発生するなど、マダニを介した感染症（重症熱性血小板減少症候群（SFTS）など）の事例が多発しています。森林ボランティア活動では、藪の中やネザザの中で活動する機会が多く、潜在的にマダニ被害の可能性が高いことを踏まえ、本協議会ではこれまでマダニ被害に関する情報提供等を行ってきました。

この度、2021年12月に兵庫県とアース製薬（株）が締結した、虫ケア・害虫対策をはじめとした包括連携協定に基づき、県を通じて同社からマダニ忌避剤（虫除け剤）の提供をいただきました。また、夏本番を控えた2022年6月15日に開催した総会では、同社の齋藤薬剤師にお越しいただき、マダニの標本（血を吸う前と後のマダニ）や動画を交えながら、マダニの生態やマダニから身を守る方法などについてご講演いただきました。



齋藤薬剤師によるご講演

当日参加された会員からは、「マダニ忌避剤の効果的な使い方は？」や「もしマダニに咬まれたらどうしたらいい？」など多くの質問が寄せられ、齋藤薬剤師より一つ一つ丁寧にご回答いただきました。

後日、事務局が活動現場へ伺った際も、多くの会員がマダニ忌避剤を活用されている場面が見受けられました。

マダニ忌避剤をご提供いただいたアース製薬（株）様、及び当日ご講演いただいた同社の齋藤薬剤師様には、感謝申し上げます。

マダニ忌避剤をご提供いただいたアース製薬（株）様、及び当日ご講演いただいた同社の齋藤薬剤師様には、感謝申し上げます。



提供いただいたマダニ忌避剤



緑の募金へのご協力をお願いします！

緑の募金

公益社団法人兵庫県緑化推進協会

森と緑は、二酸化炭素の吸収や水源のかん養などの働きを通じ、私たちの暮らしに欠かせない恵みをもたらしてくれています。このかけがえのない森と緑を守り育てていくため、公益社団法人兵庫県緑化推進協会では、緑の募金へのご協力をお願いしています。

なお、兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会からの2022年1月～12月の募金額は¥131,640-でした。

緑の募金へのご協力方法

1 金融機関からのお振込み

① 郵便局(手数料不要)

専用の払込用紙がありますので、(公社)兵庫県緑化推進協会にご連絡ください。→電話 078-341-4070

② 銀行(手数料必要)

次の口座へのお振り込みをお願いします。

三井住友銀行 兵庫県庁出張所 普通 3198438

公益社団法人兵庫県緑化推進協会

2 キャッシュレス募金

ソフトバンクの「つながる募金」からキャッシュレスでもご協力いただけます。



募金のページ QRコード

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

事務局から会員へのお知らせ

メールで助成金やセミナーなどの情報提供をしています。

未登録の団体で、希望される場合は以下のメールアドレスまでご連絡ください。

(担当：治山課 森づくり普及班 石森)

chisanka@pref.hyogo.lg.jp

事務局 兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会

〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10番1号

兵庫県 農林水産部 治山課内

TEL 078-362-3613

FAX 078-362-3952

会報に関する問い合わせ：桑田 結

〒657-0011 神戸市灘区鶴甲3丁目5番29-106

Tel/Fax 078-851-0291

携帯 090-3166-9785

e-mail bunawouerukai.kobe@gmail.com